

4 乗り物に乗る(電車・バス)



1 電車に乗る

- 目標**
- ① 目的地への行き方を質問することができる。
 - ② 電車や駅に関することばについて知る、理解する。
 - ③ 目的地までの行き方や時間について理解することができる。
 - ④ 駅名、行先など駅の表示を理解することができる。
 - ⑤ 自分で切符を買うことができる。

トピックのイメージ作り

- ・日本で電車に乗ったことがあるか、何のために乗ったか、など経験を訪ねる。電車に乗ったときの感想を聞く。
- ・[話せる学習者の場合]日本の電車のマナーや自国との違いについて話す。
- ・音があれば、ベルや電車のアナウンス、駅のアナウンス（「白線の内側にお下がりください」など）を聞かせる。

語彙の導入

1) 駅の名前や駅に関連のある言葉について知る P.67

- ・P.67の路線図を見ながら、大垣と近郊の駅について読み方、位置を確認する。路線図の各国語バージョンがあれば持参する。
- ・駅にあるものの写真（電車の時刻表、券売機、電光掲示板、改札口の様子等）を見せながら、語彙を確認してもよい。

はなしましょう！ 1) P.72

1) 京都まで 行きたいです。どうやって 行きますか。

- ・練習問題の他に、語彙導入時に路線図で確認した駅名などを入れて練習。
 - ・「どうやって」をP.5で確認。
- 学習者の行きたい場所を聞き、その地名を入れて練習をする。

2) 行きたいです。

「Vます形（行く→行きます）+たいです。」

- ・ P. 72 の訳で意味を確認する。
動詞の「ます形」についてはテキスト P. 12 を参照。問題を解いて練習。
- ・ 余裕がある学習者であれば、「今、食べたい物は何ですか。」
「行きたい場所はどこですか。」など「たいです」を使った質問をする。

3) 米原から 京都まで どのくらい かかりますか。

(電車で) 50分 ぐらいです。

- ・ 「～から～まで」、「どのくらい」、「かかる」の意味を確認。
- ・ 「～分」の言い方を P. 9 の時間を使って確認 (P. 9 右側の「～分」の部分のみを使う)。その後、口頭で練習。
- ・ 「～さんの家からスイトピアセンターまでどのくらいかかりますか」など
学習者の身近なことで理解確認の質問をする。
- ・ バスについても出てくるので、大垣駅周辺のバスの路線図なども用意するとよい。

4) A : 何枚ですか。

B : 大人 2枚と 子ども 1枚です。

- ・ 「～枚」について P. 3 を見て確認、練習をする。
- ・ 自分の家族が切符を買う場合の、枚数を練習。
- ・ 時間に余裕があれば、「枚」の付くものを他にも教え、実際の物を使って数える練習をする。

会話のことば	P.70-72
<ul style="list-style-type: none"> ・ 支援者がことばを発音し、学習者は意味を確認しながら後について言う。 ・ 「乗り物」について、ここに出てくる「電車」「バス」以外に知っている物を挙げてもらう。 ・ 「(場所) 行きの電車」の地名、乗り物を変えて練習してもよい。 ・ 「新幹線」から、そのほかの電車の種類について聞く。 ・ 「枚」について再度確認。1～10まで言ってもらおう。 ・ 「片道」／「往復」 「片道〇分」、「片道〇円」から往復を導く、など意味の確認練習。 <p>[余裕がある学習者の場合]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 駅員：「～員」 の付く他の言葉を提示し語彙を増やしても良い。 ・ 「～まで」：「まで」と「までに」の違い。 ・ 「まず」：「まず」、「それから」、「次に」で手順の説明をする ・ 「大人」／「子ども」：「子ども」の乗車料金について説明（学習者が利用する交通機関が具体的にわかれば、事前に料金区分を調べておく）P. 73 参照。 	
会話	P.67 -69
<ul style="list-style-type: none"> ・ アントニオさんが今いる場所、これからすることについて場面の確認。 ・ 支援者が会話文を読む。学習者は P. 69 の訳（ポルトガル語、英語、中国語、ベトナム語）を見ながら音と意味を結びつけて理解する。 ・ 以下、『本書の使い方(P. 2)』の④会話〈会話の進め方〉を参照。 ・ 長いようであれば、道を尋ねる場面と切符を買う場面に分けて、前半、後半として練習をする。 ・ 会話文の内容を確認する（駅員の言葉が理解できたかの確認）。 <ul style="list-style-type: none"> 支援者：・ アントニオさんはどこに行きたいですか。 <ul style="list-style-type: none"> ・ そこまでどうやって行きますか。 ・ 米原から、京都までどのぐらいかかりますか。 ・ 他に何で行くことができますか。 ・ 切符売り場の会話 表現の確認 <ul style="list-style-type: none"> 「京都までの切符」、「〇枚と〇枚」、「片道」、「往復」 	

知っていると いいです！

P.73

- ・色々な鉄道会社について話す。
- ・鉄道会社の割引切符情報について、最新の情報を伝える。
- ・こども料金など、料金について話す。(事前に調べておく)

学習目標を確認して終了

2 バスに乗る

- 目標**
- ① 目的地と交通手段、乗り場について尋ねることができる。
 - ② バスや乗車に関わる語彙を知る。理解する。
 - ③ 運賃表を理解し、料金を払うことができる。



写真提供：名阪近鉄バス

トピックのイメージ作り

- ・ P.74 の写真を見ながら、案内所について説明。
案内所でできることについて聞く、話す。
- ・ 日本でのバスの利用経験について聞く。
- ・ 市バスだけでなく、高速バス、空港へ行くバス、
観光バスなどに広げて聞いてもよい。
- ・ 話せる学習者であれば、自国のバスについて説明してもらう。

はなしましょう！ 1)

P.79

1) **市役所**に 行きたいです。ここから バスが ありますか。

- ・問題に出てくる語彙の確認。(大垣の施設に関するマップなどがあると良い)
- ・「Vます形+たいです」についてはP.72を参照。
- ・練習問題の他に、学習者の行きたい場所、大垣市、近郊の施設などを入れて練習。
- ・「バスがありますか」の「バス」を入れ替えて練習してもよい。

(例：電車、地下鉄、シャトルバス、高速バス)

はなしましょう！ 2)

P.79

2) このバスは市役所へ 行きますか。

- ・ はなしましょう！ 1) 同様、問題の場所や施設について確認。
- ・ 練習問題を解いた後、乗り物と行き先を、学習者の行きたい場所に変えて練習。

はなしましょう！ 3)

P.79

3) (～を) 使うことができますか。

- ・ P. 79 で、「辞書形+こと」ができます」の意味、作り方を確認。
- ・ 辞書形の作り方を P. 12 で確認・練習。
学習者の身近なことで理解確認の質問をする。
- ・ 練習問題を解いた後、余裕がある学習者であれば、「ここで」「ここに」の違いについても触れる。

会話のことば

P.77-79

- ・ 支援者がことばを発音し、学習者は P. 77 -79 を見て意味を確認しながら後について言う。
- ・ 「何番」「3番」の「番」の言い方について確認。
- ・ 「170円」から「～円」を付けて、100～1,000の言い方を確認。(テキスト P. 7の数字を参照する)
- ・ 乗車整理券、運賃表をテキストの写真で確認。
- ・ 「札」から、お金について確認。1,000より大きい数の言い方について確認。
- ・ 「行き先」「日祝日」など、バスの時刻表や案内にある言葉は実物を見せながらできるとよい。

[余裕がある学習者の場合]

- ・ 「両替する」から「替える」も入れ、AをBに両替する(替える)など練習してもよい。

- ・王さんが今、いる場所についてテキストの写真をしながら場面の確認。
 - ・登場人物の確認。
 - ・支援者が会話文を読む。学習者は P76-77 の訳（ポルトガル語、英語、中国語、ベトナム語）を見ながら音と意味を結びつけて理解する。
 - ・以下、『本書の使い方(P.2)』の④会話〈会話の進め方〉を参照。
 - ・場面を3つに分けて練習
 (①案内所で尋ねる②バス乗り場でバスに乗る③バスの中～下車する場面)。
 「じゃあ、乗ります。」「14番は…170円ですね。」など、「はなしましょう」
 がない表現もおさえておく。
 - ・王さんの発話を覚え、練習をする。
 - ・目的地を学習者の行きたい場所に変えて、バス乗り場～下車までのやり取りをする。(運賃がわかると良い)
 ⇒時刻、路線図、整理券、運賃表など、実物が手に入れば用意して、使いながらやり取りできるとよい。
- [余裕がある学習者の場合]
- ・バスで耳にするアナウンスについて話す。
 - ・路線図、運賃表などを見ながら近郊限定でバス旅行計画を立ててみる。

知っているといいです！

- ・「親子お出かけバスチケット」について紹介する。
- ・その他、バスに関するお得な情報について触れる。(資料などあれば紹介、持参をするとよい)

学習目標を確認して終了

5 学校へ通う



1 学校に入れる手続きをする

- 目標**
- ①日本の教育制度や学校生活、学習支援教室について知る。
 - ②年齢の言い方を知り、伝えることができる
 - ③手続きに関わる指示が理解できる。
 - ④何が心配か伝えることができる。

トピックのイメージ作り

- ・テキスト P. 81 の絵を見ながら話す。
「どこへ行きますか。」
「あなたの国で何歳から学校へ行きますか。」など。



- ・テキスト P. 87-88 「知っているといいです！」
 - ・①に「日本の教育制度」、②に「学校生活」があるので、それを見ながら学習者の国との違いについて話す。
 - ・保育園・幼稚園など就学前のことについてはテキスト P. 97-102 の「4. 保育園に入れる手続きをする」を参照。

会話のことば

P.83-86

- ・支援者がことばを発音し、学習者は意味を確認しながら後について言う。
- ・「子ども」「お子さん」の違いを説明（テキスト P. 17 「家族の呼び方」参照）
「私の子ども」「〇〇さんのお子さん」のように丁寧な呼び方かそうでないかの違いになる。
- ・「何歳」「7歳」⇒P. 86 「はなしましょう！ 1）」で年齢の言い方を練習する。
- ・「1年生」⇒「〇年生」の〇部分に数字を入れて学年の言い方を練習する。
- ・テキスト P. 87 「知っているといいです！」①を見て、小学校は6年生、中学校は3年生までであることを説明。

- ・ 支援者が会話文を読み、学習者は P. 82-83 の訳（ポルトガル語、英語、中国語、ベトナム語）を見ながら音と意味を結びつけて理解する。
- ・ 以下、『本書の使い方(P. 2)』の④会話〈会話の進め方〉を参照。
- ・ 会話文の内容を確認する。

支援者：・アントニオさんは子どもをどこへ入れたいですか。

- ・ アントニオさんのお子さんは何歳ですか。
- ・ アントニオさんのお子さんは日本で何年生ですか。（ここでは1年生となっているが、誕生月によっては2年生の可能性もある）
- ・ アントニオさんの子どもの名前は何ですか。
- ・ かれんさんの日本語は大丈夫ですか。
- ・ 漢字が心配です。どこで勉強しますか（知っているといいです！③参照）。

- ・ ロールプレイ（役割練習）

⇒担当者とアントニオになって話す。

「はなしましょう！」で練習をした後は、会話文の中の子どもの年齢や学年、心配なことを入れ替えて話す練習をする。

はなしましょう！ 1)

1) A：何歳ですか。

B： **7歳** です。

- ・ 数の発音に気をつける。

「いちさい」ではなく「いっさい」、

「よさい／しさい」ではなく「よんさい」、

「はちさい」「くさい」「じゅうさい」ではなく「はっさい」「きゅうさい」「じゅっさい」である。

2) 在留カードを 見せて ください。

- ・「～て/で ください」の意味が「指示」であることを訳（テキスト P. 34）などで確認する。
- ・「～て/で」の動詞の形を「て形」という。
- ・「見せる」「書く」「言う」「押す」「する」「教える」のて形を確認する。

【て形の作り方】テキスト P. 12 参照

※動詞のグループ分けは、テキスト P. 13 参照

○グループ 1 の動詞（五段活用の動詞）

辞書形⇒て形 （辞書形とは、辞書に載っている形）

「～う」「～つ」「～る」⇒「～って」 例「言う」⇒「言って」

「～く」⇒「～いて」 例「書く」⇒「書いて」

「～す」⇒「～して」 例「押す」⇒「押して」

○グループ 2 の動詞（上一段・下一段活用の動詞）

「～る」⇒「～て」 例「見せる」⇒「見せて」

「教える」⇒「教えて」

○グループ 3 の動詞（サ行・カ行変格活用の動詞）

「する」⇒「して」

「くる」⇒「きて」

3) 漢字 が 心配です。

- ・以下のように「～は大丈夫ですか」の質問に対して「～が心配です」と答えて練習するとよい。

A：日本語は大丈夫ですか。

B：漢字／①ひらがな／②カタカナが心配です。

A：学校の授業は大丈夫ですか。

B：③日本語／④算数／⑤テストが心配です。

A：日本の生活は大丈夫ですか。

B：～が心配です。

A：仕事は大丈夫ですか。

B：～が心配です。

知っているといいです！

P.87-88

- ・①「日本の教育制度」、②「学校生活」を見ながら学習者の国との違いについて話す。
- ・③「外国人児童・生徒放課後の学習支援教室」
日本語指導の教室のひとつ。
「はなしまししょう！」で、子どもがいる学習者に子どもの学習のことで心配なことがあった場合、この情報を紹介するとよい。

学習目標を確認して終了

2 学校の行事について聞く

- 目標** ①わからないことについて尋ねることができる。
②学校の行事について話すことができる。

トピックのイメージ作り

- ・テキスト P.92 「はなしましょう！」①～③の絵を見て、「これは何ですか。」と学校行事について知っていることを聞いてみる。
⇒「はなしましょう！」
- ・学習者の母国にこの絵のような行事があるか、あるいはどんな行事があるか、尋ねてみる。

会話のことば

P.90-91

- ・支援者がことばを発音し、学習者は意味を確認しながら後について言う。

会話

P.89-90

- ・支援者が会話文を読み、学習者は P.89-90 の訳（ポルトガル語、英語、中国語、ベトナム語）を見ながら音と意味を結びつけて理解する。
- ・以下、『本書の使い方(P.2)』の④会話〈会話の進め方〉を参照。
- ・会話文の内容を確認する。
支援者：・誰が田中さんと話しますか。
・誰がプリントをもらいましたか。
・「家庭訪問」は何ですか。
- ・学習者が今までもらった書類やプリント、あるいは学習者の子どもが学校でもらったプリントでわからないものがあれば持ってきてもらう。それを使い、会話文のように話してみる。

はなしましょう！ 1)

P.92

1) A：これは 何ですか。

B：「ア）**家庭訪問**のお知らせ」です。

A:「ア) **かていほうもん**」は 何ですか。

B:「イ) **先生が 家へ 来ます。お父さん お母さんと 話します。**

- ・上記の例や①～③の行事以外にもし何かあれば取り上げ、できるだけやさしい日本語で説明する。
- ・学習者の子どもが通っている学校の年間行事予定表があれば持ってきってもらう (学校によってはホームページから行事予定表を見ることができる)。
- ・学習者の母国にはどんな行事があるか尋ねてみる。

学習目標を確認して終了

3 学校へ欠席・遅刻の電話をする

- 目標**
- ①電話をして、名乗ることができる。
 - ②事情を話し、欠席・遅刻を伝えることができる。
 - ③あいさつをして、電話を終えることができる。

トピックのイメージ作り

- ・テキスト P. 96 の子どもが熱を出している様子の絵や病院の絵を見せる。



「子どもは怎么样了か。」「学校へ行きますか。」「学校へ電話しますか。」などの質問をして、トピックについて話す。

会話のことば

P.94-95

- ・支援者がことばを発音し、学習者は P. 94-95 を見て意味を確認しながら後について言う。

[学習者に余裕があれば]

- ・「1年2組」: 日本に学習者の子どもがいる場合は日本での子どもの学年、クラスを確認する。また、学習者の母国ではどのようにクラスをわけなのか(学力別、午前・午後のクラスなど)、クラス名はどうなのか、1クラスあたり

の人数などを聞いてみてもよい。

- ・「担任」：日本では小学校と中学校とでは担任の役割が少し異なる（教える科目など）。学習者の母国ではどうか聞いてみるとよい。

会話

P.92-94

- ・支援者が会話文を読み、学習者は P. 93-94 の訳（ポルトガル語、英語、中国語、ベトナム語）を見ながら音と意味を結びつけて理解する。
- ・以下、『本書の使い方(P.2)』の④会話〈会話の進め方〉を参照。
- ・会話文の内容を理解したかどうか確認する。

支援者：・アントニオさんは誰のお父さんですか。

- ・鈴木かれんさんは何年何組ですか。
- ・かれんさんは学校に遅れますか。どうしてですか。
- ・学校の人のはかれんさんの遅刻を誰に伝えますか。
- ・アントニオさんは何と言って、電話を切りましたか。

- ・ロールプレイ（役割練習）

⇒学校の人とアントニオになり、学校へ欠席・遅刻の電話をする。

- ・「はなしましょう！」で事情を説明する練習をした後は、会話文の内容を一部変えて話す練習をする。

はなしましょう！ 1)

P.96

1) A: **けさ、かれんが けがを しました**。

今から 病院へ 行きます。学校に 遅れます。

B: **遅刻** ですね。

A: はい。すみませんが、よろしくお願いします。

- ・事情を説明し、欠席・遅刻・早退を伝える。
- ・学習者の状況に合わせたやりとりにする。学校だけでなく、勤務先に電話をかける設定でもよい。

例：熱があります。今から病院へ行きます。仕事を休みます。

学習目標を確認して終了

4 保育園に入れる手続きをする

- 目標**
- ①就学前の子どもの保育・教育について知る。
(保育園・幼保園・幼稚園の違い、就学前の日本語指導など)
 - ②市役所で子どもを保育園に入れたい事情を話すことができる。
 - ③保育園(幼保園・幼稚園)の先生と話すことができる

トピックのイメージ作り

- ・テキスト P. 98 の絵を見ながら話す。
「けんと君です。2歳です。(隣の人は)先生です。
ここは小学校じゃありません。ここはどこですか。」
「あなたの国で子どもが2歳です。お父さんとお母さん、仕事します。子どもはどこへ行きますか。」など。
- ・テキスト P. 102 「知っているといいです！」
①に「保育園・幼保園・幼稚園の違い」、②に「一時保育」があるので、それを見ながらそれぞれの役割の違いを知る。もし学習者に5歳以下の子どもがいる場合は、家庭の状況からどの選択肢がいいのか考えてみる。



会話のことば

P.99-100

- ・支援者がことばを発音し、学習者は意味を確認しながら後について言う。

会話(市役所の子育て支援課で)

P.97-98

- ・支援者が会話文を読み、学習者は P. 97-98 の訳(ポルトガル語、英語、中国語、ベトナム語)を見ながら音と意味を結びつけて理解する。
- ・以下、『本書の使い方(P. 2)』の④会話〈会話の進め方〉を参照。
- ・会話文の内容を理解したかどうか確認する。

支援者：・王さんは子どもをどこへ入れたいですか。

・どうしてですか。

・王さんのお子さんは今何歳ですか。

(お子さんと子どもの違いについて・・・P. 17、P. 84を参照)

- ・ ロールプレイ（役割練習）

「はなしましょう！」で事情を説明する練習をした後、市役所の担当者と王美麗になり、会話文の内容を（子どもを保育園に入れたい事情など）一部変えて話す。

はなしましょう！

P.101

1) 仕事を 探したいです。

それで、子どもを 保育園へ 入れたいです。

- ・ 子どもの保育園や幼保園への入園に関して許可される場合と許可されない場合がある。事情によっては入園ではなく一時保育になる場合もあるので、詳しくは市役所の子育て支援課で尋ねるとよい。
- ・ 学習者に就学前の子どもがいる場合は実際の状況に合わせて話す練習をする。

会話（〇〇保育園で）

P.98-99

- ・ 支援者が会話文を読み、学習者はP.99の訳（ポルトガル語、英語、中国語、ベトナム語）を見ながら音と意味を結びつけて理解する。
- ・ 以下、〈会話の進め方〉を参照。
- ・ 会話文の内容を理解したかどうか確認する。

支援者：・王さんは今日、けんと君のお迎えが早いですか、遅いですか。

・ どうしてですか。

・ 先生は王さんに何をお願いしましたか。どうしてですか。

- ・ 役割練習（ロールプレイ）

⇒保育園の先生と王美麗になり、会話文の内容を（お迎えが送れる理由など）一部変えて話す練習をする。

知っているといいです！

P.102

- ・ ①「保育園・幼保園・幼稚園の違い」、②「一時保育」を見ながら、それぞれの役割や子どもの年齢、保育時間について話す。また、学習者の国ではどうか聞いてみる。
- ・ ③プレスクール「きらきら教室」

就学前に日本語指導が行われる。時期や場所については、大垣市役所のまちづくり推進課に問い合わせる。

学習目標を確認して終了

⑥ 病院へ行く



1 病院を探す

目標

- ①体の部位の日本語がわかる。
- ②病状が話せる。
- ③病状別に行く病院の種類がわかる。／近くの病院を知る。
- ④病気のときの対処の仕方(休日・夜間の病院、助言の言い方)を知る。

トピックのイメージ作り

- ・テキスト P. 103 の絵を見せながら
「熱、あります。体、悪いです。どこへ行きますか。」
と質問する。



語彙の導入

1) 体の部位の日本語

P.107

- ・体の部位を示しながら支援者が発音し、学習者は後について言う。
- ・支援者が体の部位を言い、学習者はそれを聞いてどの体の部位か指を差す(聞いて理解する)。
- ・学習者が体の部位を言い、支援者はそれを聞いて体の部位か指を差す(覚えたことを話し、意味を確認する)。
- ・支援者が体の部位を指差し、それを見て学習者がその部位の日本語を言う。

2) 病状の日本語

P.108

- ・テキスト P. 108 「はなしましょう！」 1) にある絵を見る。
- ・支援者が「頭が痛い」と言い、学習者に「頭が痛い」絵を選んでもらう。同様にして他の絵もを選んでもらう。何度か繰り返し、絵と音を結びつける。
- ・絵を指差しながら学習者にその病状を言ってもらおう。
- ・体の部位を言い替えて、病状を言う(下の「～」部分を言い換える)。

(～が痛い／～を切りました／～がかゆいです／～が赤いです、など)

3) 病状別に行く病院の種類

P.106、 P.108

・テキスト P. 106 の病院の種類の記事を見ながら、病状別にどの科へ行ったらよいか考える。

「子どもが熱を出しました。どこへ行きますか。」

(病院の種類はテキストに挙げたもの以外にもあり、学習者のレベルや要望に合わせて適宜紹介する)

はなしましょう！ 1)

P.108

1) A: どうしましたか。

B: 。いい病院がありますか。

A: 近くに がありますよ。

・AとBになって話す練習。上記の会話はP. 103の会話文中にもあり、訳もP. 104にある。必要であれば、訳を見せて意味を確認する。

・「近くに〇〇がありますよ」の〇〇の部分は、もし可能なら医療機関地図(子育てハンドブック「水都っ子」などを参考)を使って病状に合わせて学習者の自宅周辺の病院を紹介できるとよい。

知っているといいです！

P.109

・「はなしましょう！」の会話を使って、病状ごとの休日、夜間の病院を紹介する。

支援者: どうしましたか。

学習者: 子どもが熱を出しました。いい病院がありますか。

支援者: 今、日曜日の午前9時です。大垣市急患医療センターがありますよ。

[テキストには記載がないが、これらの情報も参照]

●大垣市急患医療センター 電話 73-9090 東外側町2丁目24

- ・診療科目／内科・小児科
- ・診療日／日曜・祝日・年末年始・8月15日（5月15日までの15日に近い日曜日「大垣まつり」は除く）
- ・診療時間／午前9時～正午、午後1時～5時

●大垣歯科医師会休日診療所 電話 81-6540 恵比寿町南7-1-14

- ・診療科目／歯科
- ・診療日／日曜・祝日・年末年始・8月15日
- ・診療時間／午前9時～正午、午後1時～5時

土・日曜日の夜間に急病人（小児）が出た場合

●小児夜間救急室 電話 81-3341

南瀬町4丁目86（大垣市民病院救命救急センター内）

- ・診療科目／小児科（15歳以下）
- ・診療日／土・日曜日（ただし、祝日、年末年始、8月15日を除く）
- ・診療時間／午後6時～午後9時
- ・診療体制／西濃地域の各医師会所属の小児科医師または小児科標榜医師

夜間に急病人が出た場合

●大垣市民病院救命救急センター 電話 81-3341 南瀬町4丁目86

会話のことば

P.104-105

- ・支援者がことばを発音し、学習者は意味を確認しながら後について言う。
[学習者に余裕があるようなら]
- ・「～を探す」「～を予約する」を使って文を作る。
- ・「心配」「近く」の反対語を考える。
- ・「近く」と「近い」の違いを考える。
(近く = 近い ところに〇〇小児科がある / 〇〇小児科はここから近い)

会話

P.103-104

- ・支援者が会話文を読み、学習者は P.104 の訳（ポルトガル語、英語、中国語、ベトナム語）を見ながら音と意味を結びつけて理解する。

- ・以下、『本書の使い方(P.2)』の④会話〈会話の進め方〉を参照。
- ・会話文の内容を理解したかどうか確認する。

支援者：・王さんの子どもは大丈夫ですか。

- ・いい病院がありますか。
- ・小児科はどんな病院ですか。
- ・王さんは病院へ行きますか。
- ・王さんは病院に電話しますか。
- ・どうして電話しますか。

はなしましょう！ 2)

P.109

2) **電話で 予約して** ください。

- ・電話で予約できない病院もある。最近は WEB で予約できる病院もあり、予約の仕方はさまざまである。

可能なら、「はなしましょう！ 1)」で紹介した医療機関のかかり方について学習者と一緒に、あらかじめ電話などで予約するのか、直接行くのがいいのか、調べるとよい。

- ・「～てください」の訳はテキスト P. 34 参照。
- ・「～て/で」の動詞の形を「て形」という。
- ・「予約する」「飲む」「ぬる」「さす」「貼る」「洗う」「する」「寝る」のて形を確認する。

【て形の作り方】 テキスト P. 12 参照

※動詞のグループ分けは、テキスト P. 13 参照

○グループ 1 の動詞（五段活用動詞）

辞書形⇒て形（辞書形とは、辞書に載っている形）

「～う」「～つ」「～る」⇒「～って」 例「洗う」⇒「洗って」

「ぬる」⇒「ぬって」

「貼る」⇒「貼って」

「～す」⇒「～して」

例「さす」⇒「さして」

「～ぬ」「～ぶ」「～む」⇒「～んで」 例「飲む」⇒「飲んで」

○グループ2の動詞（上一段・下一段活用の動詞）

「～る」⇒「～て」

例「寝る」⇒「寝て」

○グループ3の動詞（サ行・カ行変格活用の動詞）

「する」⇒「して」

「くる」⇒「きて」

・病状を聞き、「～てください」を使って助言する。

例 支援者：(私は) 鼻水が出ます。 ⇒学習者：薬を飲んでください。

支援者：(私は) 手がかゆいです。 ⇒学習者：薬をぬってください。

支援者：(私は) 目が痛いです。 ⇒学習者：目薬をさしてください。

支援者はいろいろな症状を伝え、学習者がそれに対して助言をする。

学習目標を確認して終了

2 病院へ行く

目標

①病院に予約の電話をかけることができる。

②保険証、診察券など病院の受付で必要なことばがわかる。

③問診票を書くことができる。

トピックのイメージ作り

・テキスト P. 110 の絵を見せながら

「電話します。どこへ電話しますか。」



会話のことば

P.112-114

・支援者がことばを発音し、学習者は P. 112-114 を見て意味を確認しながら後について言う。

- ・健康保険証や子ども医療費、問診票については P. 115-116 「知っているといいです！」を参照。

会話

P.110-112

- ・支援者が会話文を読み、学習者は P. 111-112 の訳（ポルトガル語、英語、中国語、ベトナム語）を見ながら音と意味を結びつけて理解する。
- ・以下、『本書の使い方(P.2)』の④会話〈会話の進め方〉を参照。

- ・会話文の内容を確認する

支援者：・王さんは病院に電話しましたか。

- ・何時から予約できますか。
- ・王さんのお子さんのお名前は何ですか。
- ・病院へ何を持っていきますか。
- ・何時までに病院へ行きますか。
- ・病院の受付で何を書きますか。
- ・王さんは病院の診察券がありますか。

- ・ロールプレイ（役割練習）

「はなしましょう！」で予約するときの言い方の練習をした後、会話文の病状や予約の時間、名前など、一部のことばを替えて患者と病院の人になって話す練習をする。

- ・問診票を書く練習

「知っているといいです！」③の問診票を書いてみる。

はなしましょう！ 1)

P.115

1) A： 、予約できますか。

B：はい。10時から 予約できます。

- ・予約を希望する日や時間を 部分に入れて話す。
- ・予約できないという返事もあるので、その場合はどうするか、もし学習者に余裕があれば練習する。

A : 今日、予約できますか。

B : いいえ、予約できません。

A : そうですか。じゃあ、明日、予約できますか。

・前に習った「病状」を言って予約してもよい。

A : 歯が痛いです。今日、予約できますか。

学習目標を確認して終了

3 医者の診察を受ける

目標 ①病状が話せる。

②医者の指示がわかる。

トピックのイメージ作り

・テキスト P. 117 の絵を見せる。
「どこですか。」「何をしますか。」



はなしましょう！ 1)

P.121-122

1) □を 開けて ください。

- ・「～てください」の訳はテキスト P. 34 参照。
- ・「(うつぶせに／あおむけに) なる」「向く」「吸う」「止める」「吐く」のて形を確認する。

【て形の作り方】テキスト P. 12 参照

※動詞のグループ分けは、テキスト P. 13 参照

○グループ 1 の動詞 (五段活用の動詞)

辞書形⇒て形 (辞書形とは、辞書に載っている形)

「～う」「～つ」「～る」⇒「～って」 例「吸う」⇒「吸って」

「なる」⇒「なって」

「～く」⇒「～いて」

例「向く」⇒「向いて」

「吐く」⇒「吐いて」

○グループ2の動詞 (上一段・下一段活用の動詞)

「～る」⇒「～て」

例「止める」⇒「止めて」

○グループ3の動詞 (サ行・カ行変格活用の動詞)

「する」⇒「して」

「くる」⇒「きて」

はなしましょう！ 2)

P.121

2) 保育園へ 行かない ください。

- ・「～ないください」の意味を訳 (テキスト P. 122) で確認する。
- ・「～ない」の動詞の形を「ない形」という。
- ・「行く」「入る」「浴びる」「飲む」「吸う」「食べる」「(運動/運転) する」の
ない形を確認する。

【ない形の作り方】テキスト P. 12 参照

※動詞のグループ分けは、テキスト P. 13 参照

○グループ1の動詞 (五段活用の動詞)

辞書形⇒ない形 (辞書形とは、辞書に載っている形)

「～う」⇒「～わない」

例「吸う」⇒「吸わない」

「～く」⇒「～かない」

例「行く」⇒「行かない」

「～む」⇒「～まない」

例「飲む」⇒「飲まない」

「～る」⇒「～らない」

例「入る」⇒「入らない」

○グループ2の動詞（上一段・下一段活用の動詞）

「～る」⇒「～ない」

例「浴びる」⇒「浴びない」

「食べる」⇒「食べない」

○グループ3の動詞（サ行・カ行変格活用の動詞）

「する」⇒「しない」

「くる」⇒「こない」

会話のことば

P.119-121

- ・支援者がことばを発音し、学習者は P.119-121 を見て意味を確認しながら後について言う。
- ・「受ける」は「診察を受ける」のように前に来る名詞も合わせて意味を確認する。

会話

P.117-119

- ・支援者が会話文を読み、学習者はテキスト P.118-119 の訳（ポルトガル語、英語、中国語、ベトナム語）を見ながら音と意味を結びつけて理解する。
- ・以下、『本書の使い方(P.2)』の④会話〈会話の進め方〉を参照。
- ・会話文の内容を確認する。

支援者：・王さんの子どもはいつから熱を出しましたか。

・熱は何度ですか。

・王さんの子どもはどんな病気ですか。

・薬を飲みますか。

・保育園へ行きますか。

- ・ロールプレイ（役割練習）

⇒学習者と支援者で医師役、患者役になり、病状や指示内容を替えて話す練習をする。

病名は難しいものもあるので、医師役が病名を必ずしも告げる必要はない。

例：どうしましたか／下痢をしましたか／いつからですか／昨日の朝からです
後ろを向いてください／あおむけになってください／仕事に行かないで
ください。

学習目標を確認して終了

4 薬をもらう

- 目標**
- ①薬の飲み方の指示がわかる。
 - ②薬の飲み方について質問できる。

トピックのイメージ作り

- ・薬や薬の袋を持っていく、あるいはテキスト P. 109 や P. 128 の薬の絵を見せる。
 - ・「(P. 128 の内服薬の漢字や錠剤の絵を見せ) 何ですか。薬です。飲みます。薬を飲みます。」
 - ・「(外用薬の漢字を見せ) 薬です。」
- ⇒P. 109 の「はなしましょう！ 2) ②～④ の絵を見せる。
- 「薬をぬります」
 - 「目薬をさします」
 - 「湿布をはります」

はなしましょう！ 1)

P.127

1) この薬は1日 **2**回、**朝**と**夜**、**食後**に 飲んでください。

- ・「～てください」の訳は P. 34 参照。
- ・「1日」「2回」「朝」「夜」「食後」「食前」「食間」の訳は P. 126、P. 127 参照。
- ・①～④のことばを使って入れ替え練習を行う。
「1日 (いちにち)」の「1 (いち)」と「1回 (いっかい)」の「1 (いっ)」の発音に注意する。
- ・もし薬の袋があれば、実物を見ながら話すとよい。

はなしましょう！ 2)

P.127

2) **熱がない**とき、薬を飲まなくてもいいですか。

- ・「熱がありません」 + 「とき」 = 「熱がないとき」
「とき」の前には普通形（テキスト P. 15-16）が来る。
- ・「薬を飲みません」 + 「いいですか」 = 「薬を飲まなくてもいいですか」
許可を求めるときは「～てもいいですか（テキスト P. 50 参照）」「～なくてもいいですか」の文型になり、それぞれ動詞は「て形」「ない形」を使う。
- ・「熱」「ないとき」「飲まなくても」の訳は P. 126。
- ・①～③のことばを使って入れ替え練習を行う。

※「て形」「ない形」は、テキスト P. 12 参照

会話のことば

P.125-127

- ・支援者がことばを発音し、学習者は P. 125-127 を見て意味を確認しながら後について言う。

会話

P.122-125

- ・支援者が会話文を読み、学習者は P. 124-125 の訳（ポルトガル語、英語、中国語、ベトナム語）を見ながら音と意味を結びつけて理解する。
- ・以下、『本書の使い方(P. 2)』の④会話〈会話の進め方〉を参照。
- ・会話文の内容を確認する。

支援者：・王さんはどこで薬をもらいますか。
 ・薬局で何を出しますか。
 ・薬はいつ飲みますか。
 ・熱がないとき、飲まなくてもいいですか。

- ・ロールプレイ（役割練習）

⇒薬剤師役、患者役になり、話す練習をする。

例：この薬は1日3回、朝と昼と夜、食前に飲んでください。

鼻水がないとき、飲まなくてもいいですか。

学習目標を確認して終了

